

第188回（平成29年11月26日施行）

1 級原価計算・工業簿記

第1問

従来通り「原価計算基準」の内容からの出題ですが、今まで出題されてこなかった箇所からも出題しました。また簡単な計算問題も2題出題しました。これは単に「原価計算基準」を丸暗記するのではなく、基本概念を中心に理解してもらうための措置です。

1. 「原価計算基準」八の（四）からの出題です。操業度との関連における分類は、原価計算上とても大切な概念です。
2. 「原価計算基準」二三からの出題です。組別総合原価計算の計算構造を理解しているかを問うています。
3. 「原価計算基準」一一の（二）からの出題です。工場消耗品は間接材料であり、棚卸計算法が基本となります。消費額は、 $\text{¥}500 \times (100 + 600 + 700 - 200) \text{ kg} = \text{¥}600,000$ となります。
4. 「原価計算基準」二八からの出題です。副産物の定義をよく確認してください。
5. 「原価計算基準」四六の（三）からの出題です。標準原価計算の差異の計算方法をよく確認してください。
6. 「原価計算基準」四の（三）からの出題です。いわゆる直接原価計算では、変動費のみで製造原価を計算し、固定費はすべて発生した会計期間の期間費用として処理します。特に売上高から変動原価（変動製造原価＋変動販売費）を控除した貢献利益は、経営管理上とても重要な利益概念です。

本問における月次貢献利益は、 $\text{¥}600,000 - (\text{¥}330,000 + \text{¥}30,000) = \text{¥}240,000$ となります。

第2問

製造業における仕訳の問題です。今回はすべて最近の過去問題を参考に出題してあります。

1. 材料消費価格差異の計算構造を理解しているかを問う問題です。基本的な仕訳問題と考えられます。 $(\text{¥}1,200 - \text{¥}1,130) / \text{kg} \times 3,100 \text{ kg} = \text{¥}217,000$ となり、有利差異（貸方差異）となることに注意してください。類題としては、例えば、173回に同様の問題が出題されています。
2. 得意先への製品販売時の仕訳問題です。原価の42%増しが計算できるかがポイントになります。 $\text{¥}2,400 \times 500 \text{ 個} \times 142\% = \text{¥}1,704,000$ が売上となります。なお、他人振り出しの小切手を受け取った場合は、現金勘定で処理することに注意してください。類題としては、例えば、181回に同様の問題が出題されています。

3. 外注加工賃は直接経費なので、仕掛品に振り替えることに注意してください。消費額は、 $\text{¥}465,200 - \text{¥}32,100 - \text{¥}23,100 = \text{¥}410,000$ となります。類題としては、例えば、182 回に同様の問題が出題されています。
4. 等級別総合原価計算において、積数の比で完成品総合原価を按分できるかがポイントになる問題です。類題としては、例えば、179 回に同様の問題が出題されています。
1 級製品の積数は $10 \text{ kg} \times 4,000 \text{ 個} = 40,000$ であり、2 級製品の積数は $8 \text{ kg} \times 7,000 \text{ 個} = 56,000$ となります。 $\text{¥}2,592,000$ をこの積数の比で按分すればよいわけです。
5. 部門別原価計算における作業くずに関する仕訳問題です。類題としては、例えば、180 回に同様の問題が出題されています。
6. 本社工場会計の工場側の仕訳です。月末未払賃金給料の計上をする仕訳ですが、未払賃金給料勘定が工場の帳簿にないため、その代わりに本社勘定を使用することになります。類題としては、例えば、180 回に同様の問題が出題されています。

第3問

月次製造原価報告書を作成する問題です。工業簿記においても財務諸表の作成は重要な学習項目になります。これまでは第4問で多く出題されてきましたが、問題量が多くてなかなか製造原価報告書そのものの理解が問えない状況でした。そこで今回は、製造原価報告書作成に絞って出題した次第です。

各製造原価について、その分類と計算ができることを確認してください。さらに、製造間接費について、予定配賦している場合の配賦差異の表示に関しても確認してください。製造間接費勘定を描いて、配賦差異を計算してみてください。

本問では、補助材料費、間接工賃金・給料、減価償却費、保険料、電力料が製造間接費となります。

第4問

頻繁に出題される工程別総合原価計算の問題を今回は出題しました。過去に出題されたものとほとんど同じ内容で出題してありますが、今回初めて、第2工程の終点で発生する直接材料費の処理について出題しました。その代り、副産物は出題しませんでした。

原価計算に具体性を持たせるために「スマートフォンケース」という具体的な製品の製造を設定しましたが、どうしても最後に包装しなければなりません。その費用をどのように処理すればいいかをよく考えてみてください。完成直前に包装するわけですから、すべて完成品原価とすればいいわけです。逆に言えば、月末仕掛品には無関係な原価ということになります。